

「でんきと私」

木下 紗良

私は電気がながった頃と知らない世代です。生まれてからずっと電気はあって当たり前のものであった。しかし、数年前に東日本大震災が起き、私の住む東京も節電が呼びかけられました。私にとって電気が当たり前前に使えないう生活の体験するの初です。でも、町がぼんやりと薄暗かったことと今でも覚えていきます。

最近の節電という言葉も耳になくありません。しかし、改めて電気のないう生活を想像してみると、電気がない生活の不便なところが見えてきました。例えば、照明がつかないところ、飯を食べるのも本を読むのも話をするのもできません。お風呂で沸かすことができません。テレビを見ることもできません。暖房をつけて寒さをしのぐこともできません。電気が使えないと冷蔵庫の中のものは腐ってしまったり、ご飯を炊くこともできません。

らでできません。携帯やパソコンが使えなくな
ります。その他にも出来なくなることも沢山
あります。普段はそんな生活と体験がござい
ます。しかし電気の大切さを日々意識するこ
と。大切です。日頃から意識するため、節電を
するに心がけても大切だと私は考えました。
節電は電気を節約するだけでなく、電気のあ
りがたみも少しでも感じることになります。
私は震災のとき節電で明が暗くなりとてもバ
ツクになりました。そのときは電気のありがたみ
が分かりました。私は二人から無駄な電気を
使わないように大切に使うつもりです。思い
ます。